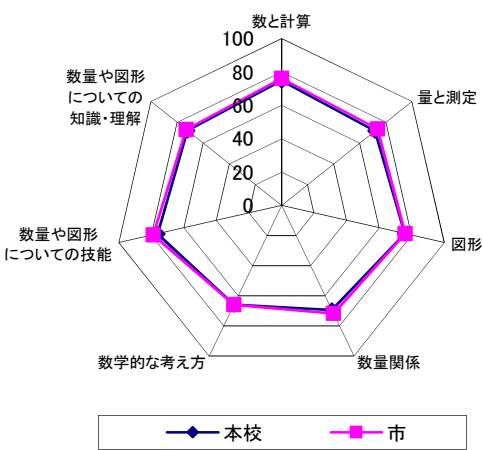


宇都宮市立岡本小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.8	76.2	72.9
	量と測定	71.8	73.6	70.6
	図形	75.6	76.0	72.1
	数量関係	69.5	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	65.9	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	76.1	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	72.0	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

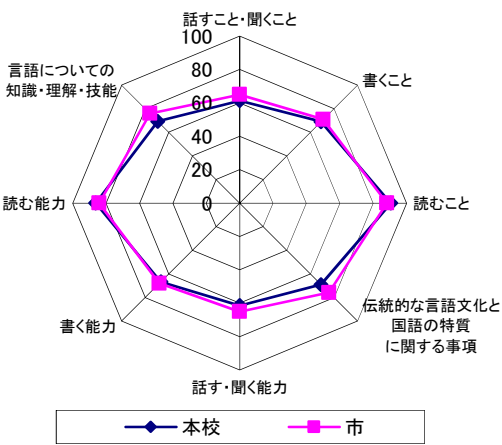
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●領域の平均正答率は市の平均正答率と比較すると1.4ポイント下回っている。特に、小数の計算・整数のなかま分けの計算(小数の除法)では、市の平均正答率と比べて10.4ポイント低い。 ○小数の計算・整数のなかま分けの計算(記述問題)では、市の平均正答率と比べて5ポイント高い。	・計算ドリル等を活用して、繰り返し練習を行い、定着を図っていくとともに、習熟度別学習を取り入れ、児童の実態に即した指導を進める。
量と測定	●領域の平均正答率は市の平均正答率と比較すると1.8ポイント下回っている。特に、直方体の体積を求める計算では、市の平均正答率と比べて7.2ポイント低い。 ○円の面積を求める式を選ぶ問題では、市の平均正答率と比べて5.3ポイント高い。	・面積や体積の求め方の公式は理解できていると思われる。公式を活用して様々な問題を解き、その解き方を言葉で説明するなど問題解決の過程を確認させるような学習を取り入れていく。 ・単位量あたりの大きさを比較する際には、線分図などに表して課題を具体的に捉え、見通しを立てて解決できるようにしていく。
図形	○領域の平均正答率は市の平均正答率と比較すると0.4ポイント下回っているが、本校の前年度の結果と比較すると9.5ポイント高い。正三角形と正六角形の内角の大きさを求める問題では、市の平均正答率と比べて9ポイント高い。 ●三辺の長さを使って、合同な三角形を作図する問題では、市の平均正答率と比べて6.1ポイント低い。	・図形の持つ特徴を再確認し、定着を図れるよう、具体物进行操作したり、ICTを活用したりしながら学習し、視覚的に理解できるように進めていく。 ・作図する学習については、用具の使い方や描き方が理解できるよう、繰り返し学習していく。
数量関係	●領域の平均正答率は市の平均正答率と比較すると全ての問題で市の平均正答率を下回っている。	・文字を使った式の理解については、低学年の□を使った式の学習からの積み重ねを大切に、学年や児童の実態に応じてフィードバックしながら学習を進められるようにする。 ・比例、反比例の学習をするときには、伴って変わること理解できるように、算数的活動を行い体得させていく。また、中学校の関数につなぐためにも、表から式を立てる、式からグラフを書く、グラフから式を書く、表からグラフを書くなど、表と式を関連させたり、表、式、グラフを一体としてとらえられるようにしていく。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	61.4	65.0	62.9
	書くこと	69.1	70.9	71.3
	読むこと	90.6	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.1	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	61.4	65.0	62.9
	書く能力	66.7	68.0	68.0
	読む能力	86.2	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	69.4	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

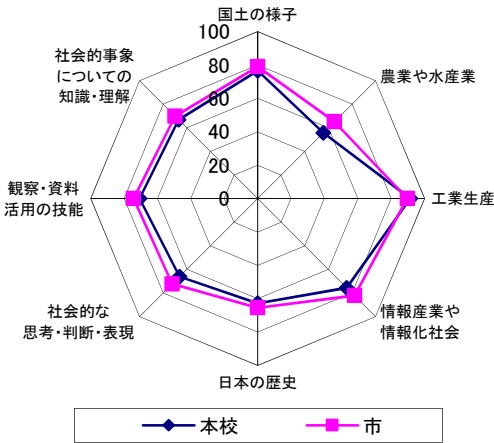
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると3.6ポイント下回っている。特に、話し手の意図を考えながら、話し合いの内容を聞く問題では、市の平均正答率と比べて5ポイント以上低く、正確に内容を聴き取る力に課題が見られる。	○国語の授業に限らず、日頃から話し合い活動を授業の中に取り入れ、話し合いの観点に基づきながら話し合い活動を進めていけるよう支援していく。
書くこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、ほぼ同じである。特に資料の内容を読み取って、文章に適切に書き表す問題では、市の平均正答率51.4%に比べて正答率57.3%で5.9ポイント高い。 ●指定された長さで文章を書く問題では、市の平均正答率と比べて10ポイント以上、下回っており、与えられた条件の中で、文章を書くことに課題が見られる。	○文字数や段落構成などの与えられた条件の中で文章を書いたり、自分の意見や理由を交えて書いたりする活動の機会を設け、書く力の向上を図っていく。
読むこと	○領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、2.2ポイント上回っている。特に文章の内容を的確に読み取る問題では、3問中2問が市の正答率より高く、説明文の内容を読み取る力が比較的良好に身についていると考えられる。 ●物語の内容を的確に読み取る問題では、登場人物の心情や文章表現の工夫を読み取る問題が市の正答率よりも4ポイント程度下回っており課題が見られる。	○場面の描写や登場人物の心情の変化に着目させながら、くり返し文章を読み取らせていく機会を設ける。また、場面の様子を表す情景などの細かい描写を丁寧に引き上げ、全体を見通しながら登場人物の言動や心情の変化を読み取ることができるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると、6.7ポイント下回っている。特に5学年の配当漢字を書く問題では、本校の正答率が市の正答率と比べて10ポイント以上下回っている問題もあり、漢字の習得に課題が見られる。	○授業や朝の学習、家庭学習において、現学年の漢字の読み書きを練習させるとともに、前学年の配当漢字も計画的に復習させ、漢字を読んだり書いたりする力の定着を図る。また、習った漢字を使って書くという習慣を身につけさせる。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	76.6	79.1	74.9
	農業や水産業	55.8	65.1	63.7
	工業生産	91.5	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	75.6	82.2	73.1
	日本の歴史	62.7	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	66.2	72.2	69.0
	観察・資料活用の技能	70.7	74.3	69.2
	社会的事象についての知識・理解	66.9	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

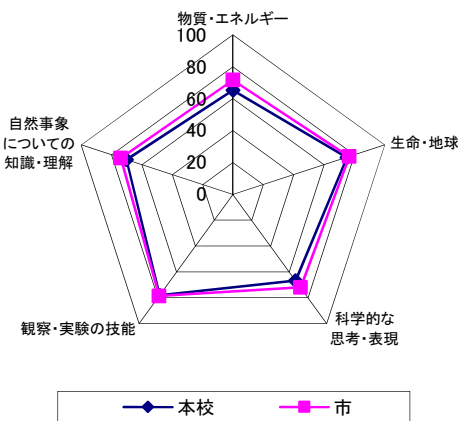
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	●領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると2.5ポイント下回っている。特に「主な国の名称と位置について理解しているか」を問う問題では、本校の正答率は、65.9%で、市の正答率79.0%に比べて13.1ポイント低い。	・主な国の名称と位置に関するプリント学習などを取り入れ、繰り返し覚える機会を設けることで知識の定着を図る。また、地図帳や地球儀等を教室内の手に取りやすい場所に置くなどして、視覚的に理解できる機会を設ける。
農業や水産業	●領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると9.3ポイント下回っている。特に「米作りの作業工程と作業を行う季節について理解しているか」を問う問題では、本校の正答率は、34.1%で、市の正答率59.3%に比べて25.2ポイント低い。	・米作りの作業工程と作業を行う季節に関するプリント学習などを取り入れ、繰り返し覚える機会を設けることで知識の定着を図る。また、映像資料の活用や地域の生産者の話など、できるかぎり体験に近い形で米作りの作業工程について知る機会を設ける。
工業生産	○領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると1.8ポイント上回っている。	・教科書に記載されているもの以外についても、児童の興味関心の高いものがあれば、発展的な学習として積極的に取り入れ、幅広い知識を得ることができる機会を設ける。
情報産業や情報化社会	●領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると6.6ポイント下回っている。特に「医療での情報ネットワークの利便性について、資料を読み取り考えることができるか」を問う問題では、本校の正答率は、63.4%で、市の正答率78.6%に比べて15.2ポイント低い。	・身近にあるスマートフォンなどを利用したインターネットサービスなどの話題を取り上げながら、ネットワークの利便性についての理解を深めることができるようにするとともに、資料を読み取り考える学習を意図的に取り上げるようにする。
日本の歴史	●領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると3.7ポイント下回っている。特に「縄文時代～平安時代」に関する問題の正答率が市の正答率より低い。	・関連するプリント学習などを取り入れ、繰り返し覚える機会を設けることで知識の定着を図る。また、その時代に関係する雑学的な話を紹介するなどして、興味関心を高める工夫を行う。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.2	71.6	67.4
	生命・地球	75.1	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	66.7	72.1	68.8
	観察・実験の技能	78.2	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	70.2	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると6.4ポイント下回っている。特に振り子の周期は振り子の長さによることを説明する問題では、本校の正答率は、46.3%で、市の正答率63.2%に比べて、16.9ポイント低い。また、ふれはばを変えても振り子の周期は変わらないかどうかを問う問題では、本校の正答率は39.0%で、市の正答率58.9%に比べて、19.9ポイント低い。○酸素の捕集法を指摘する問題では、正答率が100%である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験の目的や方法を確認する時間を十分に設け、条件を意識して実験に取り組むことができるようにするとともに、考察を自分の言葉で書かせ、分かったことを整理して覚えられるようにする。 ・見ているだけの人がでないように全員が実験を行うことができるようにする。
生命・地球	●領域の平均正答率は、市の平均正答率と比較すると1.5ポイント下回っている。特に、人のたんじょうの受精卵とうまれる子どもの大きさを問う問題、たいばんに関する問題はそれぞれ本校の正答率は、63.4%、68.3%で、市の正答率74.5%、77.3%に比べて、11.1ポイント、9.0ポイント低い。○月と太陽、植物のつくりとはたらきについての問題では、全て市の平均正答率を上回っている。	・実物を扱うことができないので、画像や映像、人形等の教材を活用し、実体験を通して理解できるようにする。また、生と命の健康教室等の保険領域とも関連付けながら理解を深める。

宇都宮市立岡本小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語に興味を持たせる指導の工夫と言語能力の育成	すべての学年で、言葉の特徴やきまりに関する学習内容に重点を置いた指導を行い、言語事項に関する重要語句や文法を繰り返し意識させ、言語に興味を持たせるとともに、その定着を図る。	言葉の学習に関する問題の平均正答率は、熟語の構成についての問題が市平均と同程度、文の構成についての問題は、市の平均よりも2.9ポイント高い結果となった。また、国語辞典の使い方について、掲載される順序を選ぶ質問に対しては、市の平均と同じだが、どのような形で記載されているかを書かせる問題の正答率は、58.5%と市の平均正答率より13.1ポイント低い結果となった。
授業のねらいに対する振り返りの充実	授業の始めに本時のねらいを明確に示して児童1人1人に1時間の授業の見通しをもたせるとともに、授業の最後に振り返りの時間を設け、学習内容を整理して再確認し、確実に定着が図れるようにする。また、その一連の流れを全校体制で実施するため、共通のカードを作って掲示し、児童への更なる意識化を図る。	「学習に対して、自分から取り組んでいる」の質問に肯定的に回答した児童は、ほとんどの学年で市の平均より高く、「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」に関しては、全ての学年で市の平均を上回り9割を超えている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・言葉に関する意識を高め、文章読解力の伸長を図るため、授業に言語活動を意識的に取り入れるとともに、文章の仕組みを考えたり語彙を増やしたりする授業に全学年共通理解のもと取り組んでいく。
- ・各教科や学校生活全般において、言葉を取り上げて意識させる活動を多く取り入れ、言葉に対する意識を高めていく。